

【健康保険組合】 労使協議会 健保回答および大貫常務理事からのコメント

2023年6月の賞与要求につきまして、要求通り『満額回答』と致します。

回答にあたり、この場を借りて会社コメントとして、健保の認識を共有させていただきます。



コロナ禍での規制が徐々に緩和されていく流れを受けて、三越伊勢丹グループの業績も上向きになってきました。直近の22年度の決算発表では、中核事業である百貨店業の大幅な回復が、一気に営業利益を押し上げる形になっています。

今回、コロナ以前の18年度の利益を上回る結果となったことは、正に、現場で日々奮闘されている方々の努力の賜物であることは言うまでもありません。

一方で、三越伊勢丹健保においても、1 昨年より、健保財政の健全化計画に取組み、事務費等のいわゆる販管費を少しでも抑えるべく、紙ベースの今までの仕事の見直しやそれに伴うデジタル化の推進を進めていることは、ご存じのことと思います。

担当毎に、今までの働き方を見直しながら、持続可能な仕事の仕方への転換を進めています。

言い換えれば、過去に類を見ない形で大幅な業務改革を断行中です。

22年度の最終的な決算は、そうした取り組みの1つ1つの積み上げと、昨年12月の(株)三越伊勢丹の賞与が支給表通りに戻ったことも受けて、2 期連続の経常赤字を回避できる見込みになりました。恐らく、経常収支1億円少し上回る所で、賞与回復分が黒字に転換できる見込みです。

(株)三越伊勢丹の賞与回復分が、丸丸黒に転換できる形となったことは、今後のグループの業績回復と賞与の回復が、正に持続的な黒字転換への足掛かりになることは、間違いないと思われます。その意味で、健保の財政面での明るい兆しが見えてきたことは、大変喜ばしいことであると考えます。

この兆しが見えてきた今だからこそ、今後の「健康経営」の進展は、益々重要な位置づけにあると考えています。単一健保として、持続可能な健保であり続けていく為にも、働く方々1人1人の健康リテラシーを上げていくことが、今もっとも必要であると考えます。このことは、限られた職員の誰かが担うのではなく、職員1人1人が自分の職務・担当の中で、加入者に対して何をするのが、それに繋がっていくのかを考えながら、業務の改革と合わせて健康リテラシーの向上についても進めていくことが必要であると考えます。

新たな取り組みを進めるフェーズの23年度ではありますが、今後の健保の体制を盤石なものとするためにも、今回、ご存じの通り、三越伊勢丹HDSへ出向者を2名出しました。

在席の職員の皆さまには、新たな体制・役割のもとで、業務を滞りなく進めていただいていることに、改めて感謝したいと思います。そうした数々の新たなチャレンジを促進していく為には、職員1人1人の力を結集していかなければ、大化をなし得ません。その為のベースとなる人事・賃金制度は、非常に重要であり、成果の分配としての賞与には、大きな意味があると考えます。

今回の組合の要求は、業績の回復に伴い、6月賞与も昨年12月同様に支給表どおりに戻す内容であり、最低限妥当な要求であると考えています。

従って、今回の組合要求については、満額にて回答させていただきました。

引き続き、1人1人のやりがいを高めながら、皆が一丸となって邁進できるよう、健保としてもしっかり取り組んでいきますので、組合のご支援もよろしくお願い致します。